

「日水コン水インフラ財団」設立とNPOへの期待

日水コン水インフラ財団理事長 野村 喜一

設立のきっかけとねらい

自然災害に見舞われている各地域の方々は、先が見通せず、将来に不安を感じている。その解決策を模索するに当たり、先人の知恵の大切さが見直されている。震災を記憶するために建立された碑や防災を意識した街づくりなどのハード面だけでなく、人々の心の中に生活の知恵やしきたりとして受け継がれてきていることも多い。

これら地域性のある課題解決策は、地域を超えて全国で参考になることも多く、また未来に受け継いでいかなければならないこともある。現在取り組まれている個別の研究や体験を集約し、いったん抽象化・概念化する作業を行うことでより広く伝えやすくなるだろう。日水コンはこれまで全国で水インフラに関わる仕事をさせてきたため、水インフラに関わるこの普遍化作業はわれわれなら行うことができるし、やらなければならないと思った。そのため日水コンの別動

隊としてこの財団を、各地域と空間を超えた世界とを、そして時間を超えた過去から未来を繋ぐ触媒とすることが、日水コンとしての責務だと考えている。このことが、水インフラの新たな概念の創造（Value-Up）にも繋がると思う。

文化の継承について

文化という時、文明という言葉との差異を問われることが多い。文明と文化の定義については、過去から種々の説があるが、基本、「文明」は地域と深く関係しており、言語の発生のように、その地域でのみ発展し、その文明が強くあれば、そこで育まれたものが広がりみせる場合もある。物や道具などをイメージしても良い。一方「文化」は、茶道や華道にみられるように、強さは無関係に地域を超えて人々に伝承される、内面的な要素を持つ活動と認識している。

こうした背景から本財団における「文化の継承」を考

2

ふくりゅう 102号 2021年4月10日

えると、支援する行為が地域を超え内面と結びつく普遍性を持っている活動であることが前提となる。それでは本財団における「文化の継承」の具体の活動とは如何なるものなのか、例示的に少し説明をしよう。

本来、水は非常に地域性の高い物質であり、量や質において地域差が非常に大きい。だが、そこにも地域を超える普遍性はあると考えている。即ち、水循環のような思考は、如何なる場所でも考え得るし、水なくして人は生きられないことからしても、地域を超えた水の在り様の普遍性は見出せるだろう。

その最初のステップは、地域毎の水の在り様を明らかにすることから始まると考えている。換言すれば、水と関わる行為（国内外を問わず）を地域や事業毎に見ていくことに他ならない。

財団においては、こうした行為や活動に支援を行い、地域における水との関わり合いの中に普遍性を見出し、その普遍的な部分を分りやすい形で抽出して世に広め、その叡智を未来に引き継いでいくことが文化の継承だと考えている。

NPO・市民団体への期待など

地域の課題は様々で、それぞれの創意工夫が求められる。各地で活躍されているNPO・市民団体の方々は、その中心として既にそれぞれの地域で研究・活動をなされている。そこで今般、水インフラに対して知恵を絞ったり、汗を流そうとされる取り組みを、是非数多くこの財団の助成・支援事業の対象としてご応募いただき、全国の方々の参考となることを願っている。